

# 広報 **カナダ**

No. 284

## 主な内容

- 特集 農業を考える I P2 P5
- まちのわだい P6 P7
- 人権週間 P12

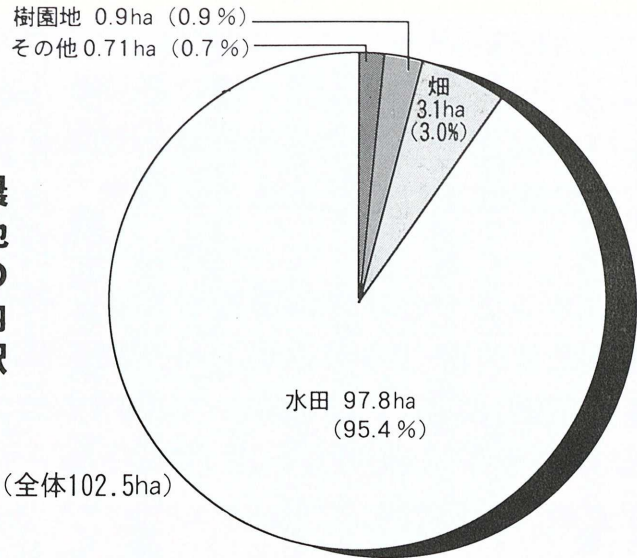
!K V  
12月 1994

住んでみたいまち  
住みつけたいまち

■発行・編集 金田町役場企画開発課  
〒822-12 福岡県田川郡金田町大字金田937-2 ☎0947-22-0556 FAX0947-22-0782



### 特集 農業を考える I



農地の内訳

田んぼが農地全体の9割以上もありますね。「金田町」は、昔からお米がたくさん取れる田んぼがいっぱいだから、「金の田んぼの町」って書いて「かなだ」っていいんだね。

でも、1戸当りの農業経営面積は6反ぐらい。サッカーコートの約1つ弱っていうのは、小さな農家が多いってことだよな！

## 経営耕地の面積について

### 現在、農業を行なっている農地の面積と、内容についてお尋ねしました。

【回答】

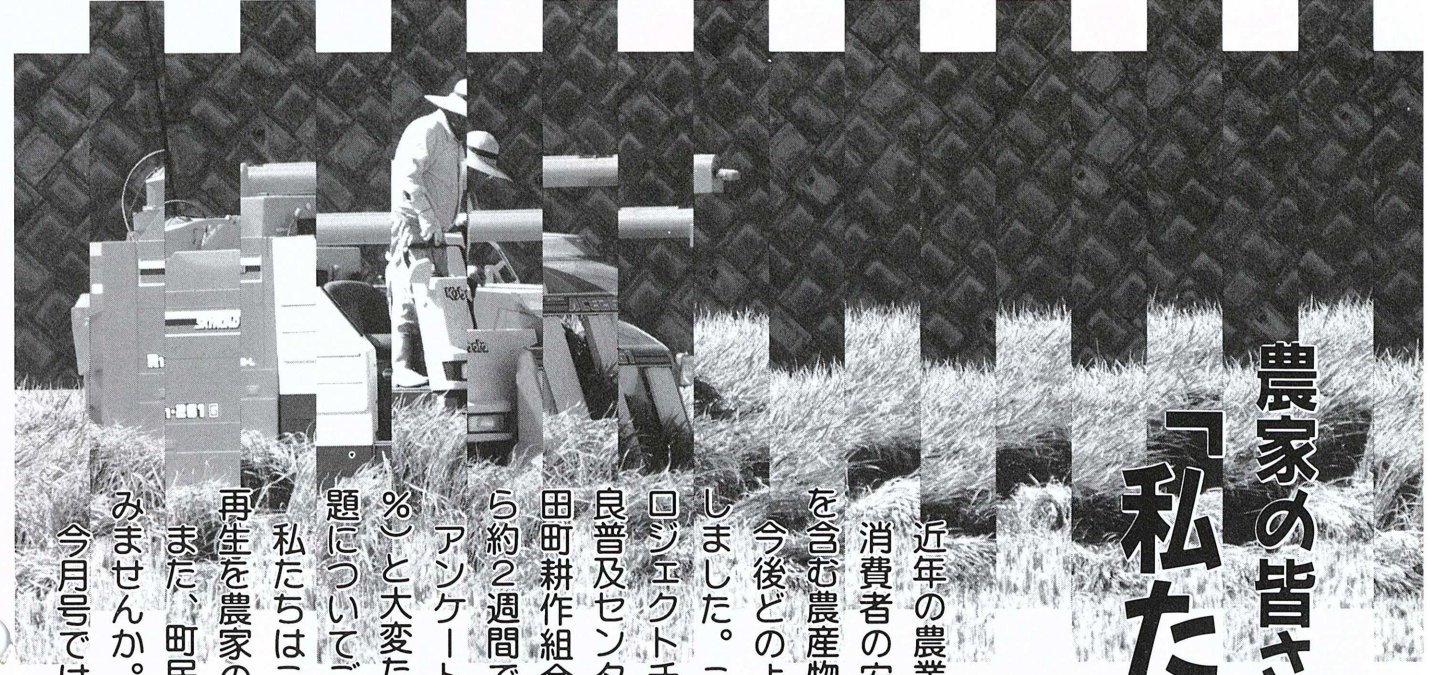
- 自分の農地を耕作している。 83.9 ha (81.9%)
- 農地を借りて耕作している。 18.6 ha (18.1%)

上のグラフのように、自分の農地を耕作していると答えた方は、全体の81.9%を占め、農地を借りている方は18.1%となっています。また、農地の内訳を見ると水田が97.8ha、畑が3.1ha、樹園地0.9ha、その他(ハウスなど)が0.71haで、農地全体に対する水田の割合が9割以上で農家の多くは、稲作など水田を利用した農業経営を行なっています。

水田の貸し借りをしている農地は、水田面積の約2割におよんでおり、農地の流動化が進んでいます。

また、1戸当りの経営面積は0.6haで、筑豊地区平均1.1ha、田川地区では0.74haと比べて容細となっています。

(回答者数171人)



### 農家の皆さん243人に聞きました。

# 「私たちはこう考える、かなだの農業」 PART I

近年の農業や農村をとりまく環境は、めまぐるしく変わっています。消費者の安全志向や農業に従事する人の高齢化や兼業化、牛肉や米を含む農産物の輸入自由化などさまざまな問題を抱えた農業……。

今後どのような農業に取り組みたいのかを農家のみなさんにお尋ねしました。このアンケートは、私たち「ふるさとカナダまぢづくりプロジェクトチーム」開発委員会(桑野裕俊委員長他)・田川地域農業改良普及センター・JA田川金田支所と金田町役場が共同で作成して、金田町耕作組合長会議のみなさんにご協力いただき平成6年7月5日から約2週間で調査いたしました。

アンケートの配布件数243枚、回答件数171枚(回答率70.3%)と大変たくさんの方からかなだの農業・農家の現状とこれからの課題についてご回答いただきました。

私たちはこのアンケート結果を基にして、「元氣なかなだの農業」の再生を農家のみなさんと考え、実践していきたいと考えています。また、町民(消費者)のみなさんも「かなだの農業」について考えてみませんか。

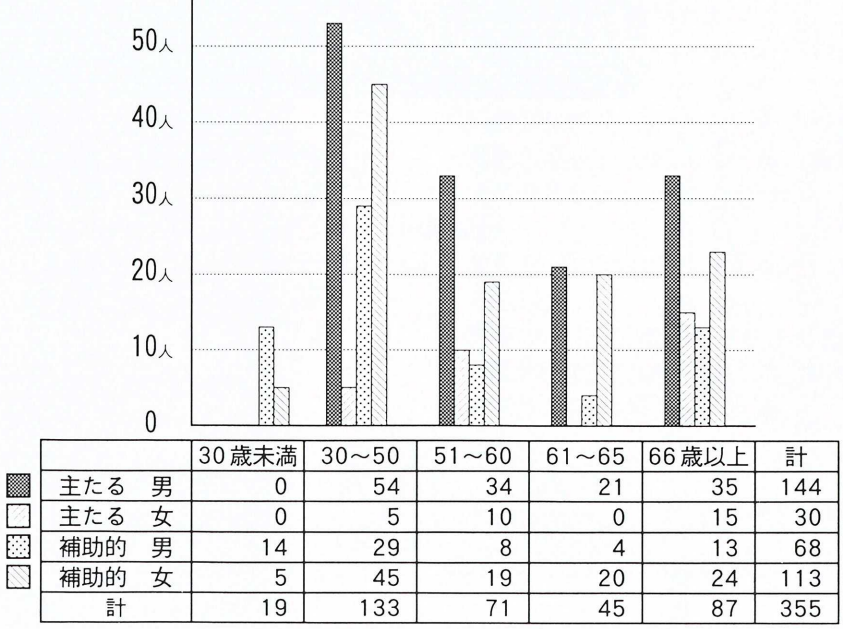
今月号では、農家と農業の現状についてご報告したいと思います。

## 農業従事者について

下のグラフを見ると、農業従事者全体の合計は355人で、5年前の調査(農業センサス)に比べると60人ほど多くなっています。

また、66歳以上の高齢農業従事者が全体の3割近く(全国平均は4割)を占めて高齢化の兆しはあるものの、30~50歳までの男性で主に従事している方が男性全体の4割近く占めていて、これからの若い担い手として期待されます。

農業従事者の内訳

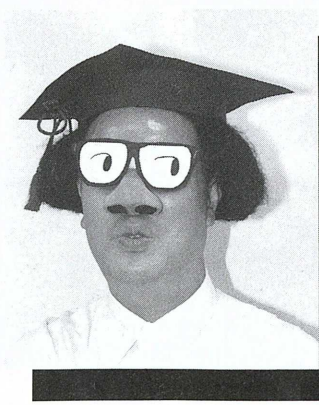


農家のみなさんに、家で主に農業を行なっている方、また補助的に行なっている方の年齢、性別についてお尋ねしました。

(回答者数166人)



農業従事者の3割近くが65歳以上の高齢者だね。でも、全国平均から見るとまだまだ大丈夫！それに、これからも農業を続けられる30歳~50歳の人で、家の農業を主にしている人も3割以上もいるね。かなだの農業の未来は明るいよ！



田畑 耕作氏のプロフィール

私もこう考えるということで、今回は、田畑氏にワシポイント解説をお願いしました。氏は、幼少のころより土とたわむれ某農林高校農業科を無事卒業し、現在は、二児の父親として、日夜農業の明日を考える、自称農業「博士」です。